

# 緑水工業・水環境フォーラム 第1回開催



グローバルウオータージャパン代表の吉村和就氏。「21世紀は水の時代だ」



緑水工業・鈴木敏美社長。パネルディスカッションでは熱心にメモを取っていた

同社の鈴木敏美社長は「自然環境問題の中、水の状態は刻々と変わっている。個人も企業も、水を守るためにどういう行動を起こすべきか。考えなければならぬ時期に来ている」と挨拶。同社による研究発表が行われた後、グローバルウオータージャパン代表の吉村和就氏が講演した。

長岡市のホテルニューオータニ長岡で10月22日、下水処理場や上水道施設の維持管理などを行う緑水工業（長岡市）の水環境フォーラム「水を想う」が初開催された。同社は2009年に創業50周年を迎え、社会貢献を目指す企業としてさらに前進する決意を固めた。同フォーラムは市民に向けて、上下水道に関する理解と知識を深めてもらうことを目的とする。

講演後は前出2氏と長岡技術科学大学准教授・姫野修司氏、朝日酒造・平澤聡広報部次長が水環境保全についてパネルディスカッションを行った。

吉村氏は「食料自給率は約40%。民主党政権は50%に上げようとしている。10%を上げるためには年間140億トンの水資源が必要。富士山の保有水量は約20億トン。富士山7つ分の水がある」「輸入する食料を栽培するために必要な水を仮想水と呼ぶ。日本の仮想水の輸入量は年間640億トン。世界最大の水輸入国のレットルを貼られている。カーボン・タックスとは簡単に言えば、二酸化炭素の排出権に税金をかけること。将来ウオーター・タックスになった場合、日本はお金をむしり取られる。だから仮想水はできるだけ減らさねばならない」と話し、水問題は国を挙げて取り組むべき課題だとした。